

日本工学会・CPD 協議会・第1回 ECE プログラム委員会
議事録

1. 日時：平成 26 年 4 月 7 日(月)15:00－17:10
2. 場所：森戸記念館 2 階第 2 会議室
3. 出席者：広崎膨太郎、中村道治、岸輝雄、北森俊行、宇野研一、川島一彦
オブザーバー：岡田恵夫、奥津良之、尾崎章、加藤穂慈、高草木明、但田潔、長井寿、持田侑宏、山本誠(以上、幹事)、四戸靖郎(事務局長)
4. 配付資料
資料 1-1：日本工学会・CPD 協議会・ECE プログラム委員会構成
資料 1-2：(新)ECE プログラム委員会設置の経緯
資料 1-3-1：NIMS イブニングセミナー：平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画
資料 1-3-2：平成 26 年度 NIMS イブニングセミナー申請書
資料 1-4-1：続々プロセス塾：平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画
資料 1-4-2：続々プロセス塾 2014 申請書
資料 1-5：日本工学会認定 ECE プログラムの開発と実施ガイドライン (案)

5. 委員長挨拶

広崎委員長から、平成 25 年 9 月 20 日の理事会において、日本工学会のガバナンス強化を目的として他団体が実施する講習会、技術講座、研修プログラム等に対する認定ガイドラインが定められたことに基づき、「認定委員会」としての性格を持たせた「ECE プログラム委員会」を設置することになった旨の経緯を中心として、冒頭の挨拶が行われた。

6. 委員自己紹介

資料 1-1 に基づいて、委員及び幹事から自己紹介が行われた。

7. 議事

1) (新)ECE プログラム委員会設置の経緯

資料 1-2 に基づいて川島委員兼幹事長から、理事会資料を中心に、現在までの経緯と「認定委員会」としての「ECE プログラム委員会」の役割に関して説明が行われた。

また、NIMS イブニングセミナー及び SICE 続々プロセス塾については、(1) 認定ガイドライン制定前にそれぞれ物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会及び SICE 続々プロセス塾 ECE プログラム推進委員会において ECE プログラムとして認定され、プログラムを実施中であったことから、平成 25 年度プログラムは認定ガイドラインに規定される「継続認定」の扱いとし、平成 25 年度末に日本工学会名で ECE プログラム認定書/修了証を発行すること、平成 26 年度プログラムについては、当初から継続実施する旨、ウェブ等に掲示されていることから、ECE プログラム委員会において継続プログラムとして内容を確認した上で、継続認定の扱いとすることが説明された。

2) NIMS イブニングセミナー

(1) 平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画

資料 1-3-1 及び資料 1-3-2 に基づいて長井幹事から平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画が紹介されたあと、以下の議論が行われた。

- ①ECE プログラム認定書/修了証び NIMS 修了証の授与候補者はいずれも年齢の高い受講者が多いが、この理由は 40 才代、50 才代の技術者がセミナーに参加しにくい状況にあることが要因の一つとして挙げられる。参加者の中には新幹線を利用して遠方からやってくる技術者もあり、平成 26 年度からは、参加しやすいようにセミナーの開始時刻を 17:00 から 17:30 に繰り下げる等の工夫をしたい。
- ②セミナーの参加に会社の許可を得にくい状況もあるようであり、今後、ECE プログラムとしての評価と認知度を向上させ、社員の参加に対する会社側の理解を得やすい方向に持っていくことが望まれる。
- ③セミナー参加者の満足度や今後のニーズを聴取すると同時に、参加者の雇用者がセミナー参加によってどのように参加者の能力向上があったと評価しているかに関する調査をしてみると有効ではないか。
- ④ECE プログラム認定書/修了証の授与候補者が、平成 24 年度には 3 名であったが、平成 25 年度には 1 名になっている。これにはセミナー参加の条件が影響しているようであるが、次年度以降、ECE プログラム認定書/修了証を得ることはきわめて難しいとのメッセージを受講者に与えることにならないか。もう少し、ECE プログラム認定書/修了証の授与候補者を増やす工夫はできないか。

(2) 平成 26 年度 ECE プログラムとしての継続認定 (案)

審議の結果、NIMS イブニングセミナーを平成 26 年度 ECE プログラムとして継続認定 (案) することを承認し、理事会に諮ることとする。

3) SICE 続々プロセス塾

(1) 平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画

資料 1-4-1 及び資料 1-4-2 に基づいて奥津幹事から平成 25 年度報告及び平成 26 年度計画が紹介されたあと、以下の議論が行われた。

- ①第 1 期のプロセス塾 (2006～2009 年度)、第 2 期の続プロセス塾 (2010～2012 年度) が実施された後に、企業から本プログラムの継続実施の要望が出されたことは、骨太で自立した技術者を育成するという本プログラムの目標が企業によく理解されたためと考えられる。参加費 (14 万円/人) を支払って受講者を参加させていることも、企業側の期待の表れではないか。
- ②派遣元の企業から参加費を支給されていることから、受講者は非常に熱心に勉強する。28 名の受講者全員を ECE プログラム認定書/修了証の授与候補者とするのが SICE 続々プロセス塾 ECE プログラム推進委員会で承認されたのは、このような背景があるためである。
- ③今後、ECE プログラム参加者が同級生としての繋がりを持ち続け、異分野、他分野の情報の入手に役立つようにするためには、ECE プログラム参加者どうしの連帯感を持ち続けさせるメカニ

ズムが必要である。このためには、ECEプログラム認定書/修了証の授与者の氏名を本人の同意を得た上で日本工学会ウェブに掲載したり、ある機会を捉えてそれまでのECEプログラム参加者の同窓会的な集まりを企画すること等が有効ではないか。

④達成目標とする点数を何点にするかは、ECEプログラムごとにその特徴や評価項目・評価方法、現在までの歴史等によって異なるため、一概に点数だけで比較することには注意が必要である。しかし、大学の講義では60点というと及第の最低点であることを考慮すると、将来的に「6割の達成度」という表現にはもう一工夫が必要ではないか。

⑤ECEプログラムの要件の一つとなっている「世界の最先端技術を取り入れたプログラム」であることを、申請書の中にはっきりと書き加えてはどうか。内容的には世界の最先端技術を取り入れたプログラムになっていると考えられる。

(2) ECEプログラムとしての継続認定(案)

審議の結果、SICE 続々プロセス塾を平成26年度ECEプログラムとして継続認定(案)することを承認し、理事会に諮ることとする。

4) 日本工学会認定 ECEプログラム開発と実施ガイドライン(案)

資料1-5に基づいて川島委員兼幹事長から説明が行われたあと、以下の議論が行われた。

①ECEプログラムとしての理念をまとめたものであるが、これ以外の方策のECEプログラムの道を閉ざすことを意図していない。いろいろなECEプログラムが実施されるようになるにつれて、互いに良い点を見習って改良を加えていくことが可能になっていくと考えられる。また、これに応じて、適宜、ガイドラインの内容の見直しが必要である。

②ECEプログラム修了証にはECEプログラムごとのナンバリングを入れ、プログラム終了後にも修了生間の横の連絡が取れるメカニズムとして機能するように工夫されている。

③本ガイドラインは本年4月中に印刷製本するとともに、工学会ウェブに掲載を予定している。本資料に対する意見があれば、メール等で四戸事務局長まで連絡する。4月14日(月)を一応の期限とする。

7. その他

年2回程度を目処に、本委員会を開催することを目標とする。次回開催日程は、別途調整の上、定める。